



TITLE:

創刊の辞

AUTHOR(S):

笹田, 昌孝

CITATION:

笹田, 昌孝. 創刊の辞. 京都大学医学部保健学科紀要: 健康科学 2005, 1: [1]

ISSUE DATE:

2005-03-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/39542>

RIGHT:

創 刊 の 辞

笹 田 昌 孝

(京都大学医学部保健学科 学科長)

この度「保健学科紀要 健康科学」が創刊されることとなった。昭和50年に設立された医療技術短期大学部が平成15年10月に医学部保健学科に改組されたこの機会に、これまでの「京都大学医療技術短期大学部紀要」と健康人間学研究会が中心となって編纂されてきた「健康人間学」の歴史を引き継ぎ、発展的に本誌として統合されたものである。

さて、本誌名にある健康科学の由来について振り返ってみたい。医療技術短期大学部が誕生してまもなく、本学の先人達はこれからの日本が目指す医学・医療の到達目標に「人間の健康」を掲げた。そして人間の健康を深く追求するため、1987年に健康人間学研究会を発足させ、その活動が開始された。この研究会は今日まで継続され、100回を数えるに至っている。そしてその研究会の成果のまとめとして「健康人間学」が創刊され、これまで15号の発行に至っている。このような活動の目標は、自然科学、人文科学、社会科学などを広く視野に入れて健康を科学し、その理論を確立することそして実践へと発展させることである。これを医療短大全体で推進するため、本学の教職員が一同に会して相互の理解を深めようと、1990年「健康科学集談会」をスタートさせた。これも今日まで継続されている。さらに、学内における議論を進めながら、健康な日本社会を実現するためには広く学外へと展開することが必要との考えに基づき、1989年一般市民を対象とした「健康科学公開講座」をスタートさせた。年に1回ながら本年も8月に開催し、今後とも継続する予定である。

人間の健康を追求する、以上のさまざまな活動は、我が国の医学・医療の将来に重要であり、その任を本学が果たしたいとの思いから出発したものである。従って、これをしっかりと学問として体系づけながら、それに基づいて実践へと発展させることが必要である。近代医学の飛躍的な進歩により、人類はあたかも病いから決別し、希望に満ちた健康を手に入れられると期待をした。しかしながら、社会構造、社会活動、人の生活などの変化に伴って、新たな病いの出現、病いとは言えない不都合、不自由の体験、病いでないのに満たされぬころなど、これまでにない色々な問題が生じてきた。これら直面して、目指す健康とは一体何かを問い直す必要性に迫られている。

健康な日本の到来に向かって、私共が何をすべきか、何ができるかを考えた時、その1つの結論は健康科学を確立することである。京都大学医学部保健学科が誕生した今、熱い思いを込めて大きな目標に向かうこととなる。時同じくスタートする「保健学科紀要 健康科学」はその創刊を祝いながら、本学の道しるべとなり、また足跡となるよう、今後の発展を期待したい。